

JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS

9 土 木 学 会 誌

1976 VOL.61

本号は両特集（8月号・農業土木へのいざない、10月号・土木図書に関する特集を予定）に挟まれた普通号である。冒頭の大東水害に関する二論文は、それぞれ現在第二審において審理中の水害裁判について、河川管理者である被告側の主張および第三者の見解である。大阪府大東市に昭和47年7月に発生した水害について、被災者が河川管理者側である建設直・大阪府・大東市を相手として訴訟を起し、第一審は原告側のほぼ全面勝利となり、現在、第二審で審理されている事件である。

現在、水害のみでも裁判所において係争中の事件は約20件もあり、その他ご存知のように、各種の公共事業に関係する裁判は多数あって、今後とも増大しそうな傾向である。結審に至らない裁判については、被告側は裁判所以外では公にはいっさい発言しないという立場もあるが、本誌としては、たとえ係争中の問題でも、当事者の個人的見解をある程度積極的に紹介し、問題点を会員にお知らせするほうがよいと考えた次第である。河川関係以外の会員も、公共事業にかかわる裁判の成り行きには関心を持っていただきたいと思い、あえてご依頼した報告である。

また、国家公務員試験の問題を含むその概要についての寄書は、学生会員はもとより、大学関係の会員の関心が高いと考え、編集委員会として前々から渴望していた原稿であるが、今回ようやく実現した。

「対談・現代数学を語る」も異色ある有益なものであろう。難解なテーマも対談形式にすれば比較的理解し易いと考え、すでに何回かこの種の対談を掲載しており、今後とも趣向をこらし続行したいと思う。

昭和51年9月10日印刷・同15日発行

©土木学会誌 第61巻9月号 (Vol. 61—10) 定価 650 円・送料 50 円

発行者・〒160 東京都新宿区四谷1丁目無番地

社団法人 土木学会 専務理事 川越達雄

振替・東京 6-16828 番/電話 03-355-3441 番 (代表)

印刷・技報堂/口絵印刷・若林原色工芸社/製版・日進社/図版・巧芸社+博栄社/用紙・王子製紙